

研究課題名	ロボット支援下膀胱全摘術における術後早期回復プログラムの有用性についての後方視的検討
研究の意義・目的	当院では膀胱癌の患者様に対して 2018 年からロボット支援下膀胱全摘術を開始し、従来の開腹手術に比べて創部が大幅に小さくなりました。しかし同手術では腸管を用いて尿路再建を行うために術後の腸管の動きが悪くなり、在院日数が延長しやすい傾向がありました。そこで、2022 年 1 月から術後早期回復プログラム（Enhanced Recovery after Surgery: ERAS）という考え方を取り入れました。具体的な変更点としては、術前の下剤投与をやめ、術前の絶飲食時間を 3 時間から 2 時間に短縮し、硬膜外麻酔を併用、短時間作用性の麻酔薬の使用、術中の麻酔使用量の低減、術後の嘔気嘔吐の予防、術後早期のガム投与、早期の離床訓練などがあります。この ERAS プログラムを適用することで、在院日数や術後合併症、術後疼痛、術後 30 日再入院率に差があるかを検討することが本研究の目的です。本研究により ERAS の有効性や課題が明らかになり、今後のより良い医療につながります。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2027 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2018 年 4 月~2024 年 4 月に大阪公立大学（大阪市立大学）医学部附属病院で、膀胱癌に対してロボット支援下膀胱全摘術およびリンパ節郭清術を受けられた方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 患者基本情報：年齢、性別、診断名、既往歴、併存疾患、入院日、身長、体重 血液検査：肝機能（AST、ALT、T-Bil、Alb）、腎機能（BUN、Cr、eGFR） 画像検査：胸部 X 線、腹部 X 線、腹部 CT 麻酔情報：術式、ASA-PS、麻酔法、麻酔時間、手術時間、出血量、尿量、輸液量、輸血量、気腹時間、術中血圧、オピオイド使用量、昇圧薬使用量 術後経過：術後腸閉塞の有無、術後合併症、初回排便日、術後 3 日目までの疼痛スケール、使用した術後鎮痛薬、在院日数、30 日再入院の有無病歴
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科麻酔科学のみで行います。 【研究責任者】舟井 優介
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 麻酔科 担当者氏名：舟井 優介 電話番号：(06) 6645-2186 メールアドレス：funai@omu.ac.jp